

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	大学教育における ICT 活用と英語プレゼンテーション授業 —授業改善による英語コミュニケーション力の向上を目指して—				
研究組織	代表者	所属・職名	言語コミュニケーション研究センター・特任講師	氏名	田中 裕実
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	言語コミュニケーション研究センター・特任講師	氏名	田中 裕実

講演題目	大学教育における ICT 活用と英語プレゼンテーション授業に関する予備的研究
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>研究目的</p> <p>本研究では、大学生英語学習者を対象とし、モバイル機器を使用することにより、学習者にもたらす環境効果や活用の可能性を探る。特に学習活動の際、学習者が自らの練習を録画し、自分で発表映像を見ることにより、学習者は何に気づき、それをどのように次の練習に生かそうとするのか、学習者の活動記録やリフレクションを含めた自由記述記録を用いて、学習者の活動の特徴、傾向、変容などの動向を観察し、分析することを目的とする。</p> <p>成果</p> <p>一般教養科目を履修する英語学習者を対象とし、当該授業の活動環境を整備した。流れとしては、授業者による活動内容の提示・説明、ICT 機器の利用方法について例示、学習者をグループ分割、グループ内での発表練習、動画録画、グループ内での録画視聴と助言交換活動を繰り返し実践、個人パフォーマンスの最終発表録画、活動についての振り返り（個人の e ポートフォリオの作成や提出は当該活動時間外で依頼）、などを行い、その後個人記録を回収した。</p> <p>対象学習者（27 名中全行程を終了した 19 名分を抽出、複数回答受領、数値等割愛）の活動観察および記録を見ると、練習初回動画の視聴後の記録について、キーワードでまとめると、[目線、アイコンタクト]に関するものが多く、次いで[声量]、[英語音声]、[姿勢、ジェスチャー]、その他[スライド提示]や[内容関連]などの傾向が見られ、記述内容の全てが達成できていない点について言及されていた。一方最終練習動画の視聴後は、活動のなかで改善された点が増え、[目線、アイコンタクト]、[英語音声]、[声量]、[内容]、[姿勢、ジェスチャー等]に関する記述があった。それから活動全体を通じた振り返りから、学習者は、当該活動全般を通じて特に[目線、アイコンタクト]に関する活動修正を最も大きく行い、次いで[姿勢、ジェスチャー等]、それから[英語音声]、[声量]に関する修正を試みる傾向があり、[内容展開]については最も小さいことがわかった。</p> <p>今後の展望</p> <p>当該活動で得た学習者特徴を活かし、ルーブリック作成など行えば、今後の授業実践において授業者の指導や助言の一助となる可能性がある。ただ本研究では十分な実践時間を割くことが叶わなかったため、今後は当該活動をさらに広げ、より長い時間をかけて学習者動向の観察および分析を行い、その結果を大学英語教育に還元することを目指したい。</p>